

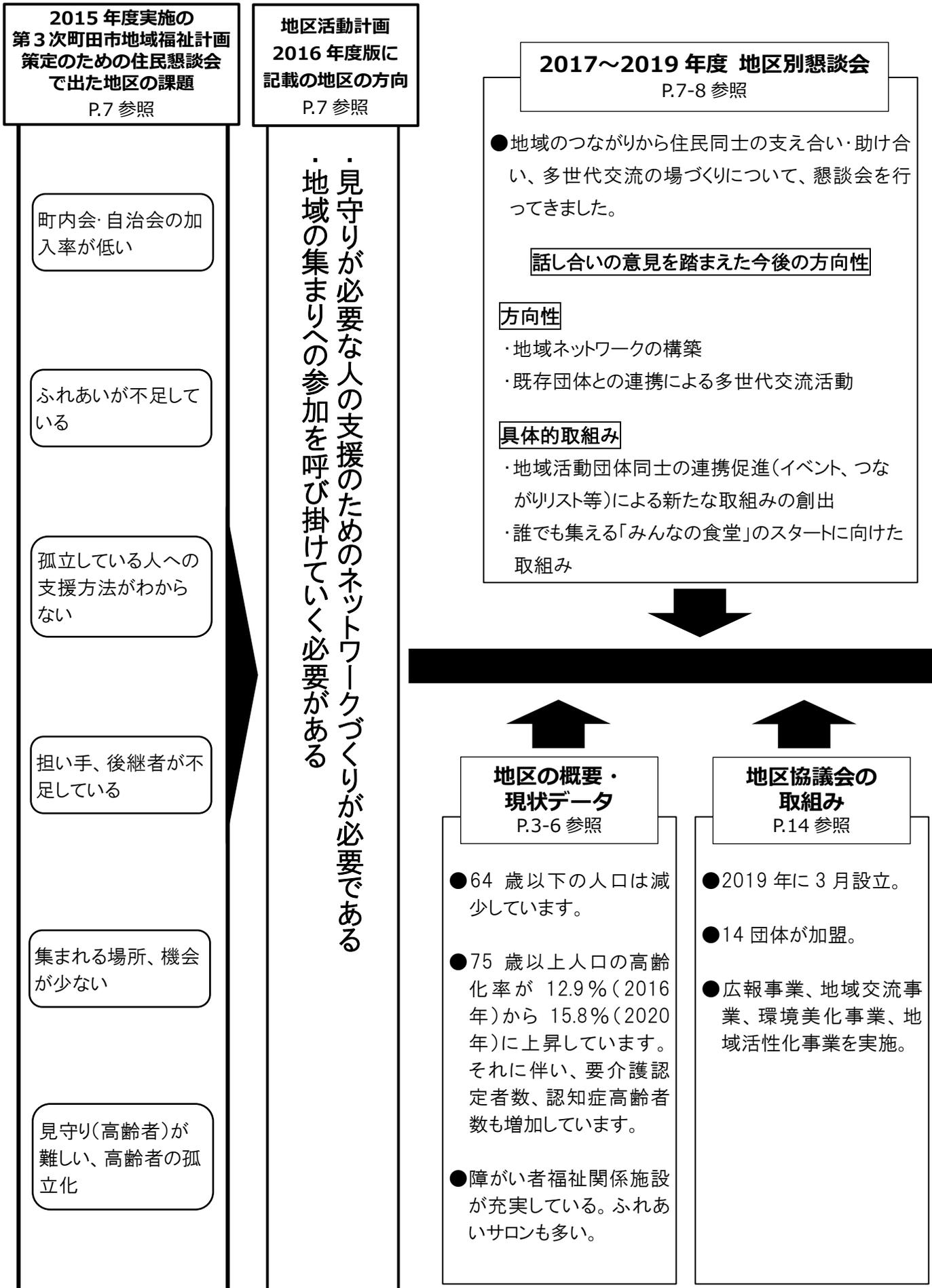
高ヶ坂・成瀬地区 基礎資料



2022年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020年度
地区別アンケート**
P.9-12 参照

コロナ禍での活動

- コロナ禍で2割の団体が活動を休止しており、継続・再開している団体も6割以上が活動を縮小しています。
- オンラインを活用し活動を行う団体も増えています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

- ・「みんなの食堂」が住民の居場所になるよう取り組む
- ・団体同士でつながり、地域行事を再開する

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.13 参照

- 地域の困りごと解決の取組みとして「成瀬お助けたい」、「鞍掛台買物・外出支援プロジェクト」など、助け合い・支え合い活動が生まれました。

**タウンミーティング
の結果** P.20 参照

**住みたい(なりたい)
まちの姿について**

- まちと人がうまく循環する
- 地域の「輪」を強めて皆で子育てできる
- 自然と都会の共存できる

**過去5年間の取組み等を踏まえ、
見えてきたこと**

◆ **地域活動団体同士の交流(イベント、つながりリスト、オンライン)による地域行事の取組みの創出**

- ・ 地区別懇談会、2020年度の地区別アンケートから、今後はイベント、つながりリストを活用するとともに、コロナ禍で根付いたオンラインツールも使用しながら、地域活動団体同士の交流、つながりづくりを促進し、地域行事の再開や、新たな取組みを創出することが求められています。
- ・ 2021年度は、地域交流事業「スマートフォン互助交流会」の開催や、「高ヶ坂・成瀬フェスタ」にてリモートでの吹奏楽の演奏などを通じて地域の人々の交流を深めました。

◆ **「みんなの食堂」の再開、横展開に向けた検討**

- ・ 高ヶ坂地区では、コロナ禍で一時的に休止していました「みんなの食堂」が再開しました。また成瀬台地区では「寺子屋ごはん」がスタートしました。
- ・ 市民アンケート調査では、地域の人が気楽に集まれる場所が求められています。
- 以上のことから、今後も、食堂が住民の居場所となり、地域に広く展開できるように進めていくことが重要と考えられます。

◆ **地域活動団体・関係機関の連携による見守りが必要な人を地域で支えるネットワークづくりの検討**

- 上記の2つを促進しながら、2016年度の地区の方向である見守りが必要な人の支援のためのネットワークづくりを地域活動団体・関係機関の連携によって進めていくことが重要と考えられます。

市民アンケート調査
P.15-19 参照

- 賃貸住宅に住む割合が高く、住民同士の協力関係が必要と考える人の割合は市全体より低くなっています。
- 地域活動・ボランティア活動に参加している割合は市全体よりも高く、住民同士の協力関係をつくるために必要なことでは、「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」が最も望まれています。また、「地域活動の相談や支援などの援助」が市全体を大きく上回っており、活動の支援への希望が大きいことがうかがえます。

2. 地区の概要・現状データ

<高ヶ坂・成瀬地区の該当町名>

高ヶ坂 1～7 丁目、成瀬 1～8 丁目、西成瀬 1～3 丁目、南成瀬 1～8 丁目、
成瀬台 1～4 丁目

(1) 5年間の地区の変化と市全体との比較

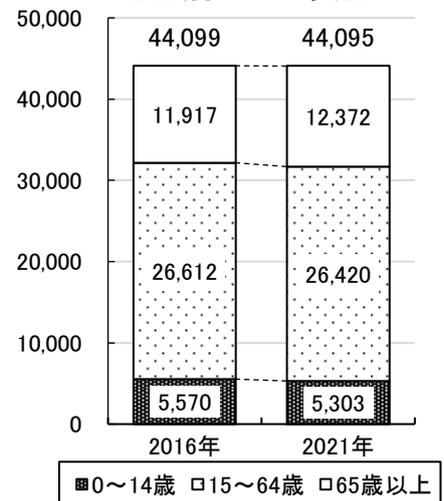
<5年間の地区の変化>

- 65歳以上、75歳以上人口の増加 (P.4「人口」参照)
- 要介護認定者数の増加 (P.4「要介護認定者数」参照)
- 障がい者数の増加 (P.4「障がい者数」参照)

<町田市全体との比較>

- 市全体より65歳以上人口、75歳以上人口の割合が高い (P.4「人口」参照)
- 要介護認定率が低い (P.4「要介護認定者数」参照)
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率が低い (P.4「町会・自治会」参照)

地区別人口の変化



(2) 高ヶ坂・成瀬地区の概要

<人口> (2021年10月1日現在)

- 44,095人
(14歳以下の割合：12.0%、65歳以上の割合：28.1%)

<特徴>

- 土地区画整理事業による宅地化が進み、緑が多く落ち着いた住宅地である。
- 65歳以上人口の割合が市平均より上回っている一方で、要介護認定率は市平均を下回っている。
- 障がい者福祉関係施設が充実している。ふれあいサロンも多い。

<主な資源>

- ・駅：1 駅 (成瀬駅)
- ・高校・大学：高校 1 校
- ・高齢者支援センター：1 か所
- ・あんしん相談室：1 か所

(3) 高ヶ坂・成瀬地区の現状データ

		高ヶ坂・成瀬地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	44,099人	44,095人	428,203人	430,607人
	0～14歳	5,570人 (12.6%)	5,303人 (12.0%)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (12.0%)
	15～64歳	26,612人 (60.3%)	26,420人 (59.9%)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (60.9%)
	65歳以上	11,917人 (27.0%)	<u>12,372人</u> (<u>28.1%</u>)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (27.1%)
	75歳以上(再掲)	5,708人 (12.9%)	<u>7,045人</u> (<u>16.0%</u>)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	19,268世帯	19,985世帯	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	2.29人	2.21人	2.23人	2.12人
要介護認定者数	要支援1	303人	468人	2,773人	4,170人
	要支援2	205人	257人	2,057人	2,500人
	要介護1	431人	524人	4,327人	5,435人
	要介護2	323人	347人	3,398人	3,411人
	要介護3	241人	248人	2,394人	2,734人
	要介護4	233人	286人	2,224人	2,841人
	要介護5	201人	208人	2,057人	2,131人
	合計	1,937人	<u>2,338人</u>	19,230人	23,222人
参考:要介護認定率 ※1		16.3%	<u>18.9%</u>	17.4%	<u>19.9%</u>
認知症高齢者数 ※2		278人	719人 ※6	1,079人	7,286人 ※6
障がい者数 ※3	身体障がい	1,142人	1,174人	11,808人	11,544人
	知的障がい	278人	333人	3,117人	3,253人
	精神障がい	374人	507人	3,698人	5,378人
	合計	1,794人	<u>2,014人</u>	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	4.1%	4.6%	4.3%	4.7%
町内会・自治会 ※4	団体数	22	21	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	7,438世帯	7,012世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	38.7%	<u>35.3%</u>	47.0% (54.3%)	41.6% (<u>48.8%</u>)
団地	参考:団地人口 ※5	1,157人	1,077人	36,225人	32,997人
	参考:団地世帯 ※5	788世帯	762世帯	20,525世帯	19,905世帯

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在/2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

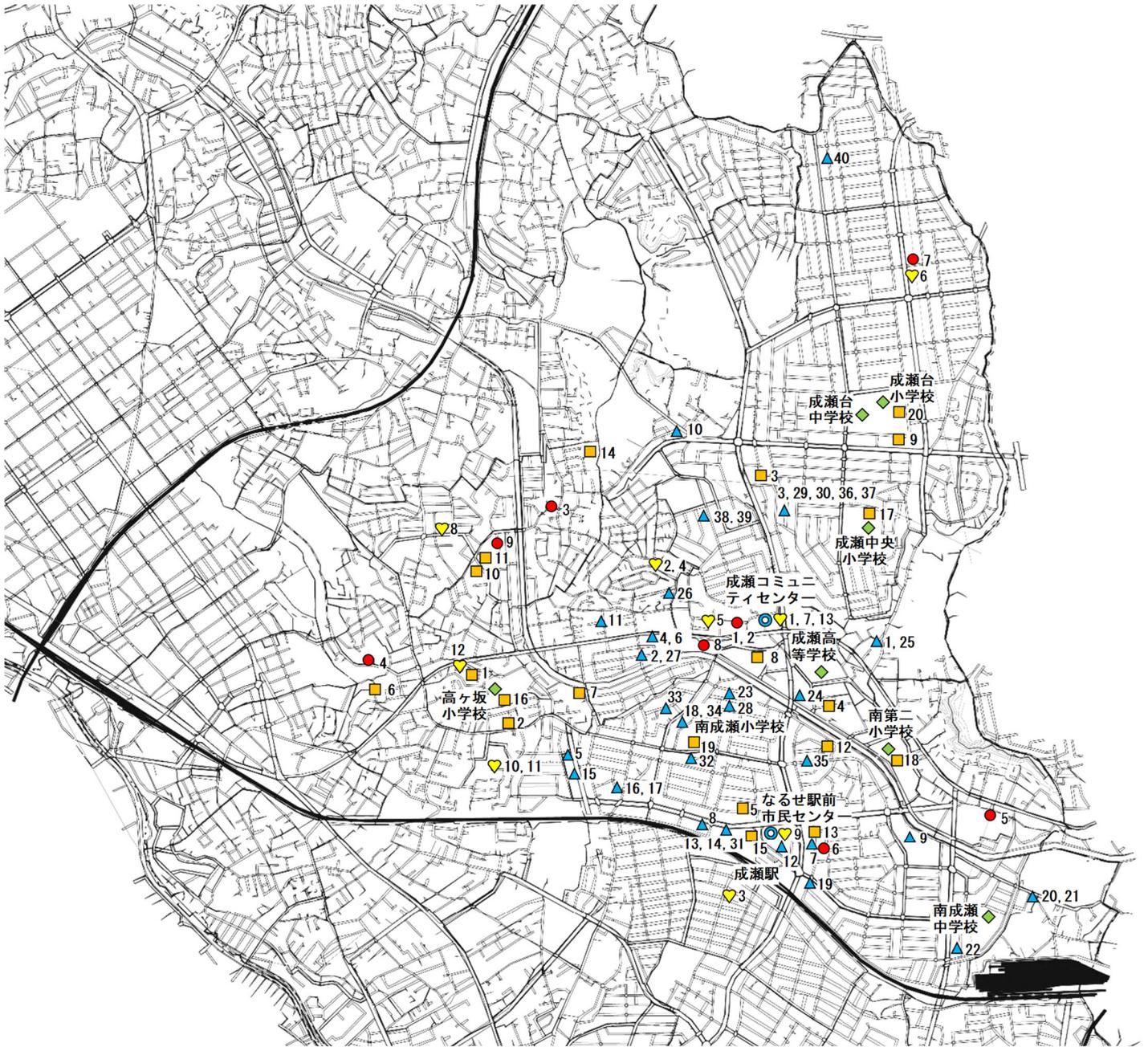
※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 各年10月1日現在。高ヶ坂・成瀬地区の数値は、該当町名を含む団地人口・世帯の合計（高ヶ坂住宅（高ヶ坂3丁目））。市全体は、東京都住宅供給公社と都市再生機構の団地人口・世帯の合計。

※5 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<保育園>

- 1 高ヶ坂保育園
- 2 高ヶ坂ふたば保育園
- 3 成瀬くりの家保育園
- 4 町田わかくさ保育園(本園)
- 5 町田わかくさ保育園(分園)

<幼稚園>

- 6 町田こひつじ幼稚園
- 7 たちはな幼稚園
- 8 第一富士幼稚園
- 9 成瀬台幼稚園

<認定こども園>

- 10 認定こども園 高ヶ坂幼稚園

<小規模保育事業所>

- 11 高ヶ坂なかよし保育園
- 12 成瀬なかよし保育園
- 13 成瀬フェリシア保育園

<家庭的保育室(保育ママ)>

- 14 スナグル・ポット保育ルーム

<認証保育所>

- 15 都市型保育園ポポラー東京成瀬園

<学童保育クラブ>

- 16 高ヶ坂けやき学童保育クラブ
- 17 成瀬中央あおぞら学童保育クラブ
- 18 そよかぜ学童保育クラブ
- 19 なんなる学童保育クラブ
- 20 すまいる学童保育クラブ

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 南第3高齢者支援センター
- 2 成瀬あんしん相談室

<認知症グループホーム>

- 3 木下の介護 グループホーム町田
- 4 グループホーム レガメ高ヶ坂
- 5 いこいの郷 花梨・成瀬
- 6 愛の家グループホーム町田南成瀬

<地域密着型特別養護老人ホーム>

- 7 ケアセンター成瀬・暖家

<特別養護老人ホーム>

- 8 まちだ正吉苑

<介護医療院>

- 9 高ヶ坂ひかり苑

●障がい者福祉関係の施設(▲)

<短期入所(ショートステイ)>

- 1 のぞみ
- 2 虹
- 3 オレンジリーフ

<計画相談支援>

- 4 地の星なんでも相談室
- 5 相談支援みつばち

<生活介護(通所)>

- 6 ベロニカ苑
- 7 エタラカ活動室

<自立訓練>

- 8 町田通勤寮

<就労移行・継続支援>

- 9 福祉レストランフレンズ
- 10 就労移行支援 風
- 11 ベロニカ苑2
- 12 ともだちひろば

<共同生活援助(グループホーム)>

- 13 こだま
- 14 成瀬寮
- 15 はるな寮
- 16 わかば寮
- 17 南成瀬寮
- 18 ひびき寮
- 19 町田いぶき寮
- 20 あかね寮
- 21 つくし寮
- 22 おがわ寮
- 23 あおぞら寮
- 24 ひかり
- 25 ひかり神社前
- 26 ホーム・まな
- 27 つばさ
- 28 つばさ寮
- 29 オレンジリーフ
- 30 グリーンリーフ
- 31 ひかり寮
- 32 ROSE・AI・MUSIC
- 33 かえで寮
- 34 すばる寮
- 35 レモンリーフ
- 36 ローズリーフ
- 37 スカイリーフ
- 38 あいわホーム町田成瀬8号棟
- 39 あいわホーム町田成瀬5号棟
- 40 りあん

●ふれあいサロン・子育てサロン(♡)

<ふれあいサロン>

- 1 成瀬西楽成会
- 2 ふれあいサロンぼかぼか
- 3 ふれあいサロン成瀬が丘
- 4 松ボックリふれあいサロン
- 5 たのしく歌おう会
- 6 ふれあいサロン成瀬台
- 7 にこにこクラブ成瀬
- 8 Wa・わ・輪ホール
- 9 ふれあいサロン桜
- 10 団地サロン さくら
- 11 さくら なかよし会

<子育てサロン>

- 12 ぼこ・あ・ぼこ
- 13 こころふれいす

【資源マップ上記載の凡例】

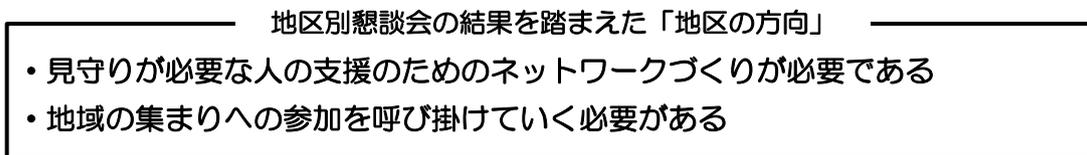
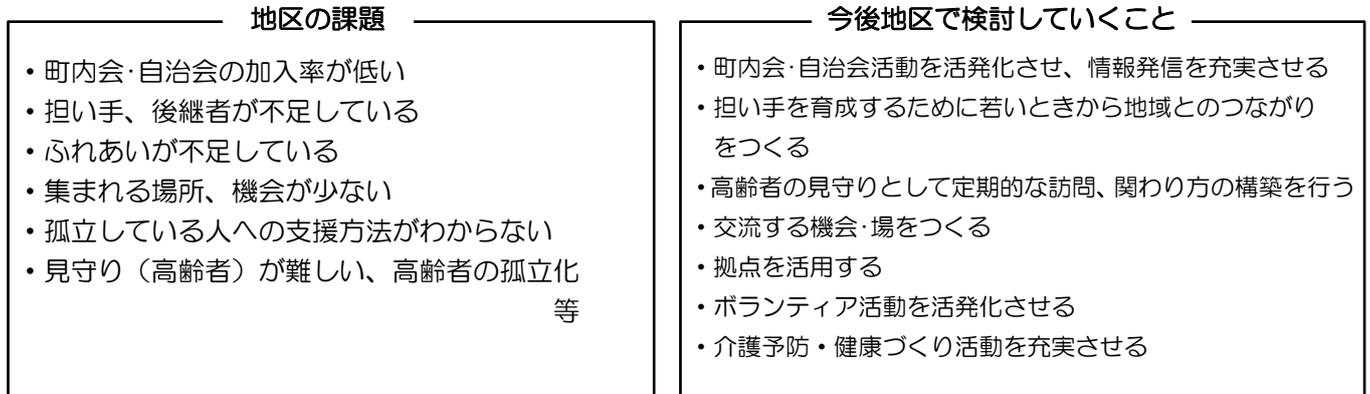
●教育施設(◆)

●その他の公共施設(◎)

4. 地区別懇談会の経過

(1) 高ヶ坂・成瀬地区 地区別懇談会

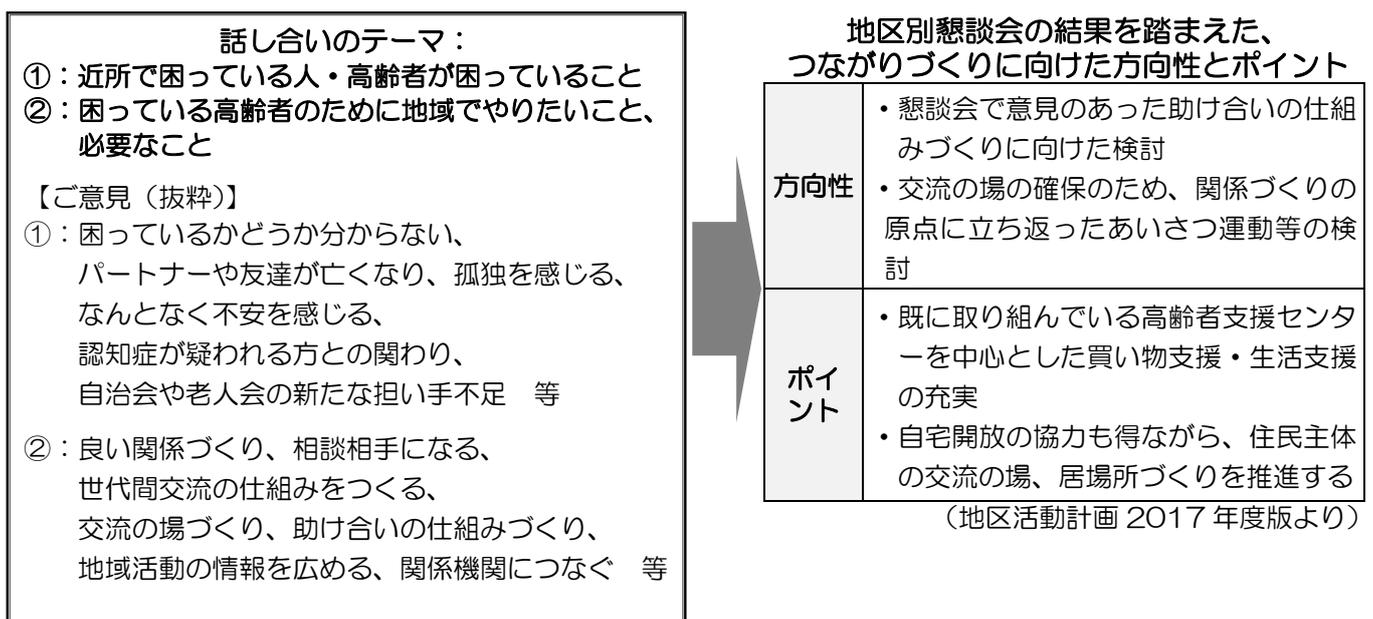
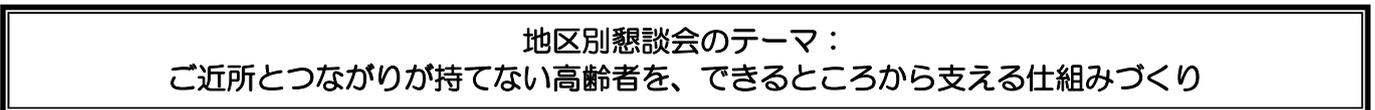
① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）



（第3次町田市地域福祉計画 第2部地区活動計画より）

※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会



③ 2018年度 地区別懇談会

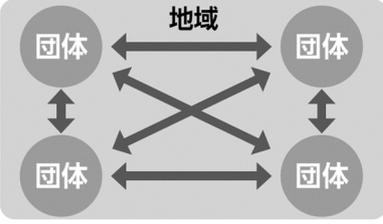
地区別懇談会のテーマ：
地域のつながりから住民同士の助け合い活動へ

話し合いのテーマ：
①：地域でできる住民同士の助け合い活動
②：活動を実現するためにできること

【ご意見（抜粋）】
①：お助け隊をつくる、
いろいろな人が参加できる機会、
おせっかい、住民のつながり活動を行う、
地域コミュニケーションの推進、
イベントの企画、居場所づくり・サロン、
子育て支援、子ども食堂、日常生活支援 等

②：人材を発掘する、イベントを企画する、
地域とのコミュニケーション、
多世代で参加できるもの、公認おせっかい士、
自宅周辺の困りごとに目を向ける、手伝う 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	<ul style="list-style-type: none"> 地域のネットワークの構築 <p style="text-align: center;">ネットワークイメージ図</p> 
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で活動しているさまざまな団体間がつながり、互いに協力しあえる ● 地域のイベントを通して団体同士がつながる機会を作り、新たな取組みを創出する <p style="text-align: right;">（地区活動計画 2018年度版より）</p>

④ 2019年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
高ヶ坂・成瀬を元気にする多世代交流の場づくり

話し合いのテーマ：
①：地域にあったらいいと思う多世代交流活動
②：多世代交流活動を実現するためにできること

【ご意見（抜粋）】
①：サロン・お茶会、子ども・学生との交流、
見守り・相談・支援、食事会、
防災活動・災害時の行動、
場所・施設、運動・スポーツ、話し合う場 等

②：場所の確保、普段からの交流、
情報共有・情報発信、広報・宣伝、声かけ、
人を誘う・探す、学校との協働、
参加しやすいしくみづくり、
イベント実施に向けた工夫 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	<ul style="list-style-type: none"> 既存の団体と連携しながら多世代交流活動を進めます。
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりリストを更新し団体同士の連携を促進します。 ・ 子どもから大人まで、誰でも集える「みんなの食堂」のスタートに向けて支援します。 <p style="text-align: right;">（地区活動計画 2019年度版より）</p>

地域で活動している様々な団体同士がつながれる方法を検討し、高ヶ坂・成瀬地区の団体同士が連携し、互いに協力しあえることを目的に、掲載の承諾をいただいた団体の方を一覧にした「つながりリスト」を作成しました。

⑤ 2020年度 高ヶ坂・成瀬地区 コロナ禍における活動についてのアンケート

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため10地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。
当アンケート調査では、コロナ禍における活動状況等を聞いています。

【回答者の基本属性】

図表 回答者の所属団体（複数回答）

	86件回答
1 町内会・自治会	32人
2 民生委員・児童委員	15人
3 青少年健全育成地区委員会	9人
4 NPO法人	6人
5 ボランティア団体	13人
6 ふれあいサロン・子育てサロン	9人
7 小・中学校	4人
8 小・中学校PTA	3人
9 老人クラブ	14人
10 障がい当事者会・家族会	1人
11 社会福祉法人	2人
12 保育園・幼稚園	7人
13 高校・大学	0人
14 地区協議会	5人
15 地区社協	1人
16 自主グループ	9人
17 その他	5人
無回答	0人

【地区別懇談会についてのご意見】

●参加しやすい日時

「平日（月曜～金曜）の午後」が最も多く、次に「土曜日の午後」が多くなっています。

図表 参加しやすい日時（複数回答）

	86件回答
1 平日（月曜～金曜）の午前	30.2%
2 平日（月曜～金曜）の午後	34.9%
3 土曜日の午前	25.6%
4 土曜日の午後	31.4%
5 日曜・祝日の午前	19.8%
6 日曜・祝日の午後	14.0%
無回答	16.3%

●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ（自由回答の抜粋）

<高齢者福祉>

- ・高齢者の福祉について。
- ・高齢者、独居の方の地域への参加促進。

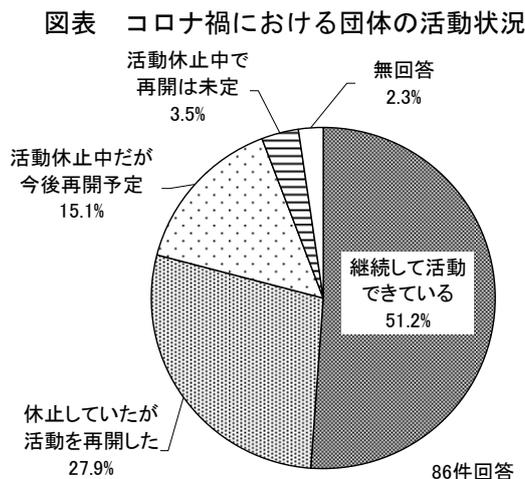
<その他>

- ・孤独死の防止と対応。
- ・ジェンダー平等のまちづくり（女性リーダーの育成支援、ひとり親家庭・シングルマザー支援）。
- ・子育て世代の悩みを知り、共に解決を考える（乳幼児～小学生くらいのいる家庭）。
- ・多世代のつながりづくり。
- ・集いの場について（空家、空スペースの活用法）。
- ・移動支援について。
- ・防災活動、災害時における共助（町会・自治会同士）。
- ・地域活動に参加したい方を広く募る方法（人材発掘）。

【コロナ禍における地域活動の状況について】

●コロナ禍における団体の活動状況

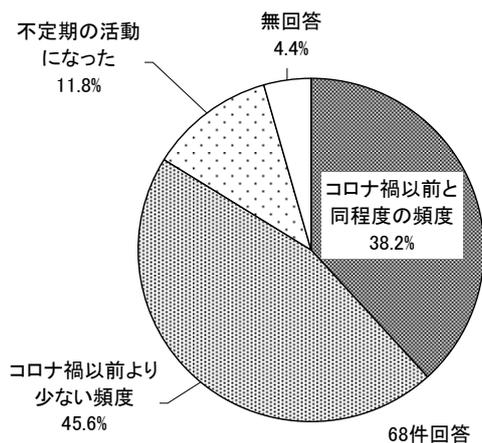
継続して活動できている団体は5割強となっています。



●活動の頻度

活動を継続している・再開した団体では、以前と同程度の活動ができているのは4割弱となっています。

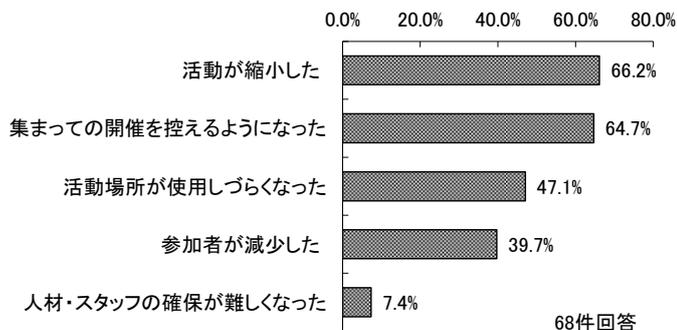
図表 活動の頻度（活動を継続している・再開した団体）



●コロナ禍での活動の変化

活動の縮小や集まったの開催を控えるようになったが6割台となっています。

図表 コロナ禍での活動の変化（上位5位）
（活動を継続している・再開した団体、複数回答）



●コロナ禍での変化の具体的な内容（自由回答の抜粋）

<開催の工夫>

- ・会議の回数を減らし、総会は書面表決にした。
- ・参加状況に対しての密にならないように、スタッフを置いた。
- ・役員会などは参加人数を半分にして開催した。総会をホームページ上での開催とした。

<参加者、利用者等の減少>

- ・①利用者の方が減少、②支援者の連絡会ができなくなった。
- ・スタッフを募集しても応募がない。

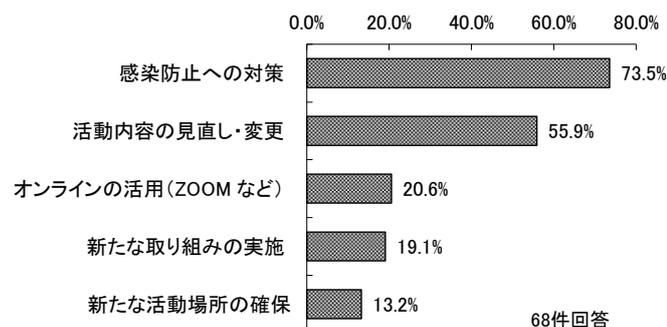
<その他>

- ・イベントの中止（お花見会、花火の夕べ、ふれあい祭り）。
- ・緊急事態宣言下の中、市内の公民館などで夜間の利用が全くできなかった。
- ・対面での活動が減ったので、メール、電話での対応が増え、時間ばかりがかかり、誤解なども増え、対面であれば5分で済む事が2～3日かかり、さらに誤解を解くのに数日かかるという様な状況で活動意欲が低下した。

●変化に対する対応策・工夫

感染防止への対策が7割強、活動内容の見直し・変更が5割半ばとなっています。

図表 変化に対する対応策・工夫（上位5位）
（活動を継続している・再開した団体、複数回答）



●変化に対して具体的に検討している対応策や工夫（自由回答の抜粋）

<情報発信の充実>

- ・新たな広報誌の配布。
- ・自治会のイベント担当チームで広報紙第1号を発刊（自治会広報紙はない）。
- ・広報はチラシでなくネットで行う。
- ・フェイスブックの活用で情報発信。
- ・HP、ブログの検討。活動を知ってもらうための情報発信強化。

<オンラインの活用>

- ・Zoomでの役員会。
- ・Zoomを会員が使えるようにする。
- ・LINEの活用。

<具体的な感染防止対策>

- ・検温（非接触型体温計）の必須、ソーシャルディスタンス等の基本を実施。
- ・子ども食堂の活動では、会食は中止せず食品の手渡し。会議の場合は体調の問診表を作成し、記入。
- ・子ども会活動において、行事中止の代わりとして、工作グッズの配布をしたりした。

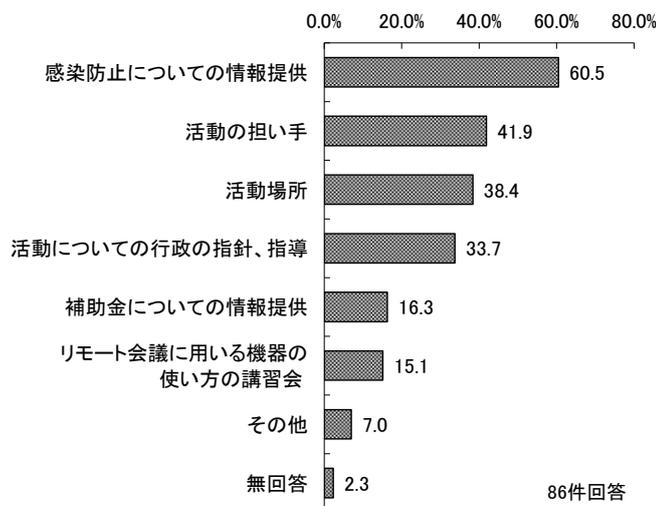
<その他>

- ・総会は書面決議方式にする。役員会は書面またはメールなどで意見交換する。
- ・直接会うことが難しい中、各個人でできることをしている。気になる方は電話、各機関につなげる。

●再開、継続していくために必要なこと

感染防止への対策が最も多く、次いで活動の担い手、活動場所と続いています。

図表 再開、継続していくために必要なこと



●新型コロナウイルス感染症の収束後に他団体と一緒に実施したいこと（自由回答の抜粋）

<団体の活動継続、再開>

- ・今までの団体が期待どおり活動できるようであればと思う。
- ・団体内のコミュニケーションが希薄になってきているので、立て直してから他団体とつながりたい。

<他団体と一緒に実施したいこと>

- ・子育て支援、子育て講座。
- ・スポーツ・運動の交流、フェスティバル等の交流。
- ・発表会。ふれあいサロン、老人ホームのボランティア等。
- ・地域のバザー。
- ・園児と地域の方との交流（高齢者や未就園児）。
- ・情報交換会（問題の共有と解決策をさぐる）。
- ・「みんなの食堂」が頓挫しているので、再開に向けて多くの協力をお願いしたい。

<その他>

- ・70名ほど入れるホールを持っており、より一層地域活動団体に利用してほしい。

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの食堂」が地域住民の居場所になるよう、取り組みます。 ・つながりリストを活用して、団体同士でつながり、地域の行事の再開をめざします。
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別懇談会を活用して、つながりリストの活用方法と地域の行事の再開を地域住民みんなで考える場をつくります。

（地区活動計画 2020 年度版より）

(2) 5年間を通して生まれた取組み

- 2018年度の地区別懇談会では、多世代で参加できるものや、イベントの企画、地域とのコミュニケーションなどの「つながり」に関するご意見や個人・団体同士のつながりを望む声をいただきました。ご意見を受けて、地域で活動している様々な団体同士がつながれる方法を検討しました。
検討の結果、団体同士が連携し、互いに協力し合えることを目的として、同意をいただいた団体を一覧にした「つながりリスト」を作成し、2019年度の地区別懇談会にて配布しました。現在、リストの充実に向け、更新をしています。
- 「成瀬お助けたい」では、高齢者、障がい者、子育て世帯などの日常生活におけるちょっとした困りごとを有償でお手伝いする活動を2019年1月より開始しました。コロナ禍においても感染症対策をとりながら、活動を継続し、地域とつながり、支え合う活動となっています。
また、団体の中で移動支援の必要性を感じ、メンバー間で話し合いを重ねた結果、自家用車を使用した移動支援を2021年7月より開始しました。ご近所の困っている方を支援し、その「援」がいつしか「縁」になるようにという思いを持って、活動を広げています。
- 鞍掛台エリアでは、買い物や外出に困っている方を助けたいという思いから、福祉施設の送迎車の空き時間を利用した買い物・外出の支援を「鞍掛台買い物・外出支援プロジェクト」として2018年1月より開始しました。地域住民が主体となって、社会福祉法人4事業所、南第3高齢者支援センター、社会福祉協議会、町田市と連携しながら、アンケート調査やルート、運行スケジュールについて話し合い、試行錯誤しながら進めています。
現在では、高齢の方から子育て世代の方まで幅広い年代から利用され、地域に広がっています。また、広報の一環として、イメージキャラクター「くらちゃん」のグッズ（パン、Tシャツ、ファイル、ステッカー、缶バッチなど）販売や配布も行っています。
- 子どもから大人まで多世代がつながることができ、集える場として、高ヶ坂7丁目エリアでは「みんなの食堂」が、また成瀬台3丁目では「寺子屋ごはん」がスタートしました。

5. 地区協議会の取組み

(1) 設立日・構成団体

<p><設立日> ●2019年3月5日（市内10地区目）</p> <p><構成団体> ●高ヶ坂・成瀬地区町内会連合会（22町内会・自治会）、青少年健全育成南第二地区委員会、南第二地区民生委員児童委員協議会、町田市社会福祉協議会、成瀬コミュニティセンター運営委員会、南第2高齢者支援センター、南第3高齢者支援センター、高ヶ坂小学校、南第二小学校、成瀬中央小学校、南成瀬小学校、南成瀬中学校、成瀬高校、高ヶ坂・成瀬ニューパワーズ（14団体）</p>
--

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報チラシの作成 ・ ホームページの立ち上げ ・ 広報紙の作成 ・ HP でのタイムリーな情報発信 ・ HP 管理運営について研修実施 	<p>広報チラシとホームページを作成し、構成団体の構成員や地区の住民に対して、地区協議会の活動状況や「高ヶ坂・成瀬ニューパワーズ」の紹介、同団体への加入募集などを行う。</p> <p>このことを通して、地区の住民同士の理解と協働を促進とすることを目的とする。</p>
地域交流事業「スマートフォン互助交流会」	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンの操作講習会 	<p>スマートフォンやLINE等のアプリケーションを使えるようになることによって、災害時の連絡や仲間づくりに役立てる。また、コロナ感染拡大防止のため、Web会議の機会が増えているため会議に役立てる。</p>
地域交流事業「ボッチャ部活動」	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボッチャの練習 	<p>東京パラリンピックの正式種目でもあるボッチャ競技を地域に広め機運醸成を図るとともに、高齢者でも無理なく始められる運動を通して、健康増進に寄与する。また、会員相互の理解と交流を図る。</p>
環境美化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内一斉・清掃活動 	<p>地区内の一斉清掃を行うことにより環境美化、防犯に寄与する。</p>
地域活性化事業「みんなの食堂」	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの食堂の実施 	<p>元気な高齢者が中心となり。みんなが集まって安価に食事ができる機会や、多世代交流や高齢者の社会貢献の機会をつくることを目的として「みんなの食堂」を実施。</p> <p>2021年度はコロナの影響で、毎月第4金曜日にお弁当や食材を配布している。</p>
地域交流事業「高ヶ坂・成瀬フェスタ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高ヶ坂・成瀬フェスタの開催 	<p>コロナの影響で、地域の交流の場が奪われている状況であるため、交流を深め地域を元気付けることを目的として開催。</p> <p>2021年度はリモートでの吹奏楽の演奏などが行われた。</p>

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

(仮称) 町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象：18歳以上の町田市内在住者 2,000人

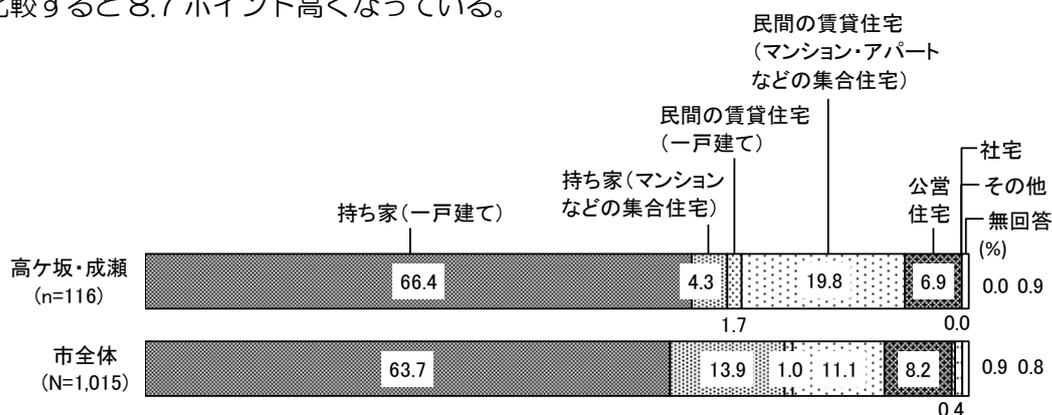
調査時期：2020年2月から3月

(1) 基本属性

- ・ 年齢は平均 60.1 歳（全体は 58.6 歳）、職業は就労していない人が 38.8%（全体は 43.8%）である。

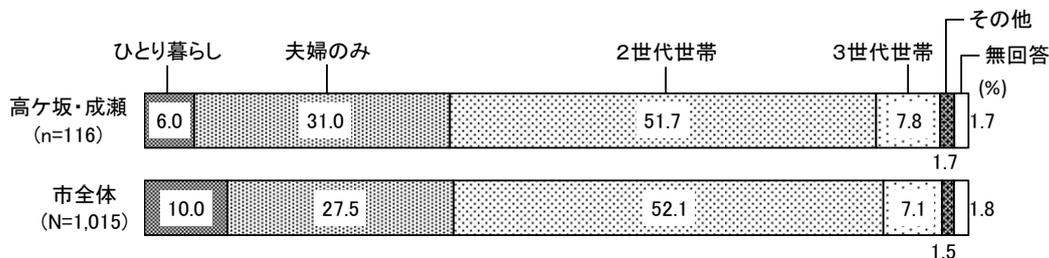
◆住まいの形態

- ・ 住まいの形態は「民間の賃貸住宅（マンション・アパートなどの集合住宅）」が 19.8%であり、全体と比較すると 8.7 ポイント高くなっている。



◆家族構成

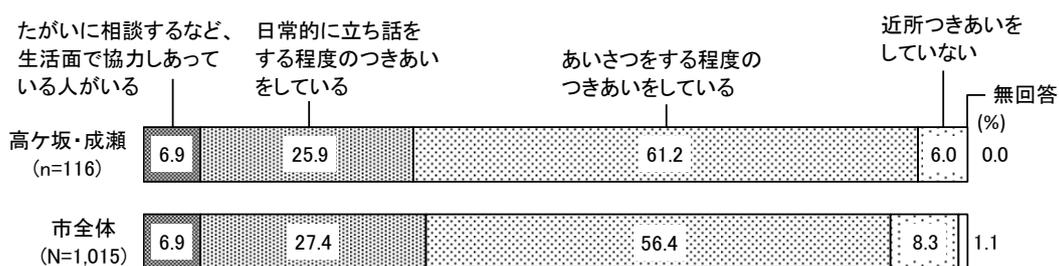
- ・ 家族構成は「夫婦のみ」が 31.0%であり、全体と比較すると 3.5 ポイント高くなっている。



(2) 地域での暮らし

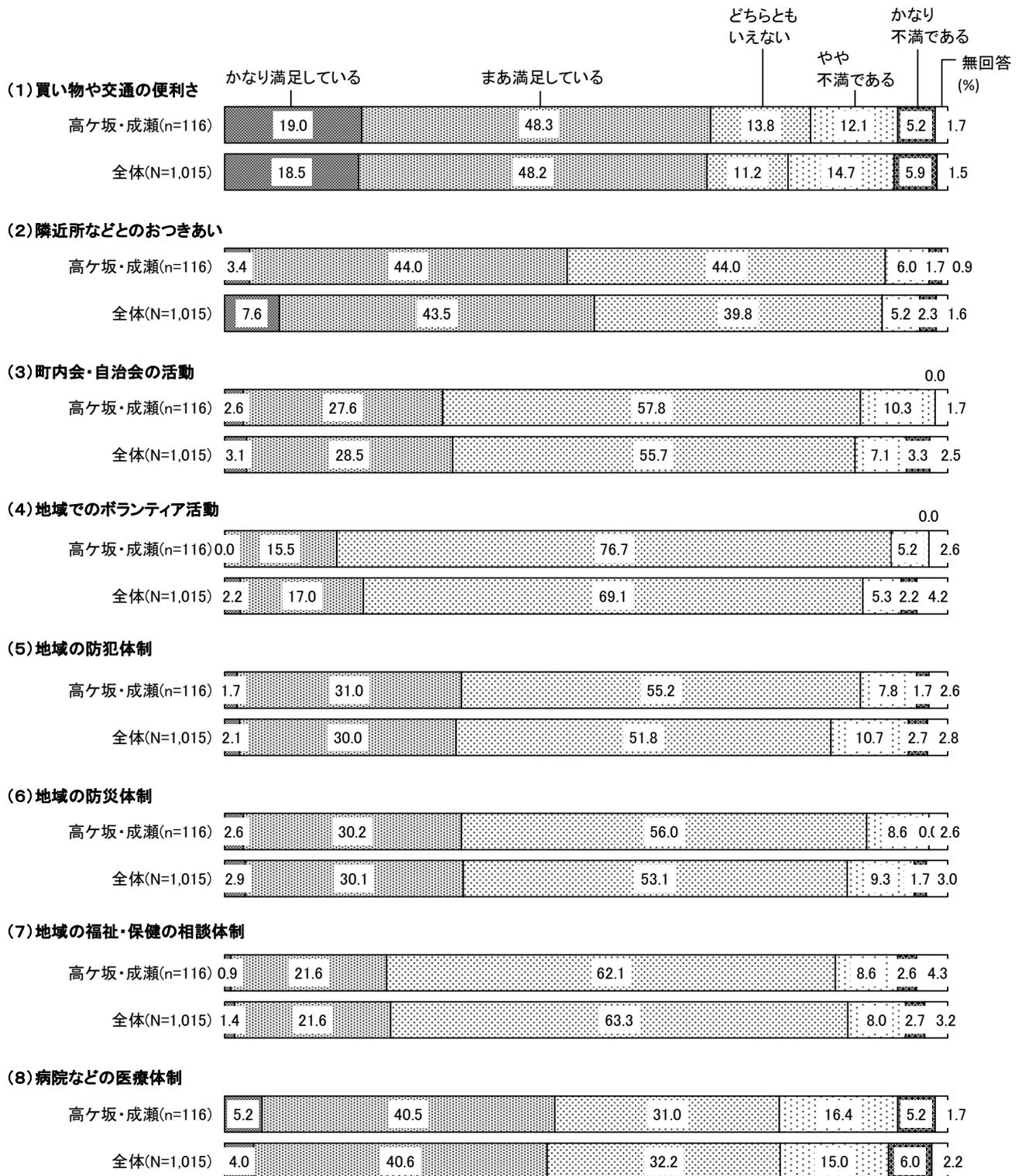
◆近所つきあいの程度

- ・ 近所つきあいの程度は「あいさつをする程度のつきあいをしている」が 61.2%であり、全体と比較すると 4.8 ポイント高くなっている。



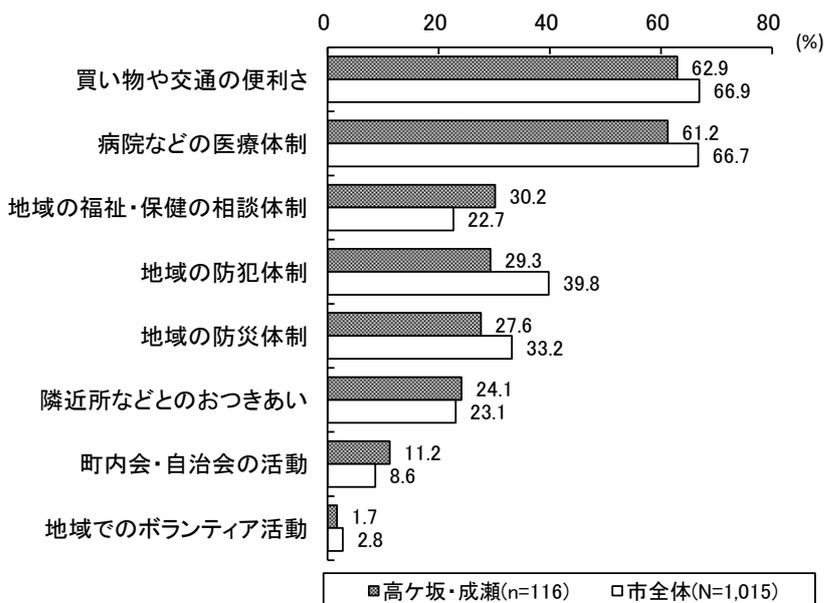
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合（満足度）は、『買い物や交通の便利さ』で6割台後半であるが、それ以外の項目で5割を超えるものはない。
- ・ その中で『隣近所などのおつきあい』は満足度が47.4%であり、全体と比較すると3.7ポイント低くなっている。また、『地域でのボランティア活動』は満足度が15.5%と低く、全体と比較すると3.7ポイント低くなっている。それ以外の満足度は全体と大きく差はない。



◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

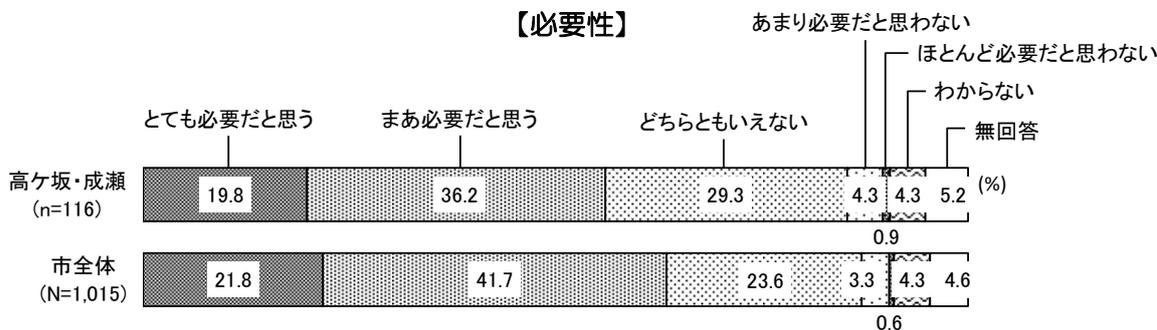
- ・ 地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「買い物や交通の便利さ」が最も多く、「病院などの医療体制」、「地域の福祉・保健の相談体制」が続いている。「地域の福祉・保健の相談体制（30.2%）」は、全体と比較すると7.5ポイント高くなっている。
- ・ 「地域の防犯体制（29.3%）」、「地域の防災体制（27.6%）」は、全体と比較するとそれぞれ10.5ポイント、5.6ポイント低くなっている。



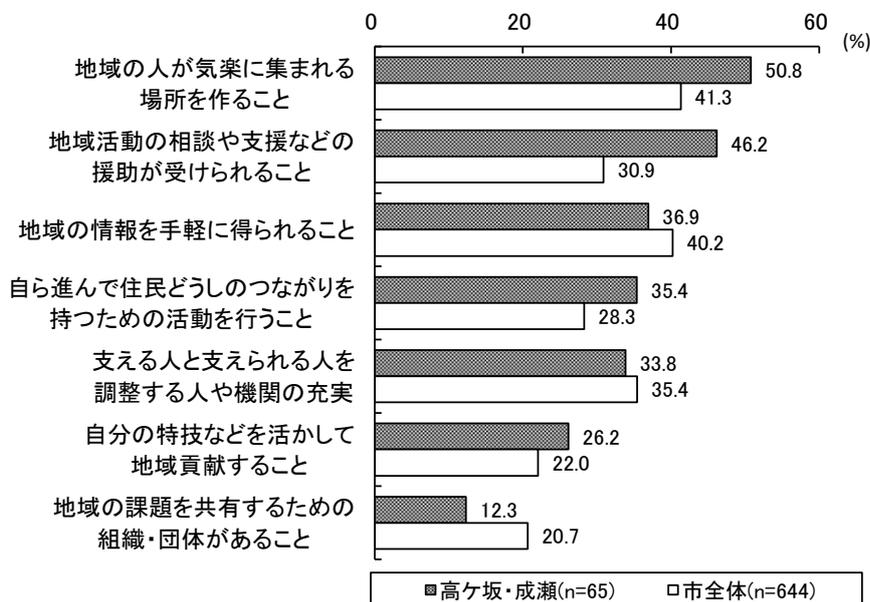
※その他、特にない、無回答はのぞく

◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- ・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性は、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」を合計した割合は56.0%であり、全体と比較すると7.5ポイント低くなっている。また、必要だと思うと回答した人に必要なことをたずねたところ、「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」が最も多い。そして「地域活動の相談や支援などの援助が受けられること」が続いているが、この割合は全体を15.3ポイント上回っている。



【協力関係をつくるために必要なこと】〈必要だと思う人〉

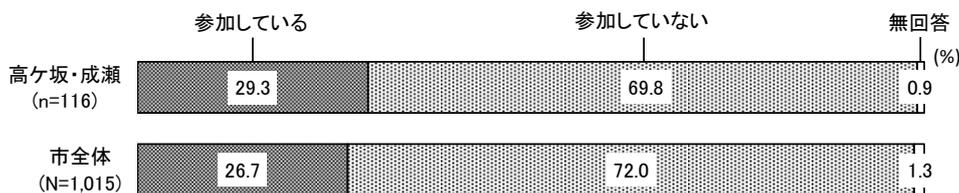


※その他、特にない、無回答はのぞく

(3) 地域活動・ボランティア活動

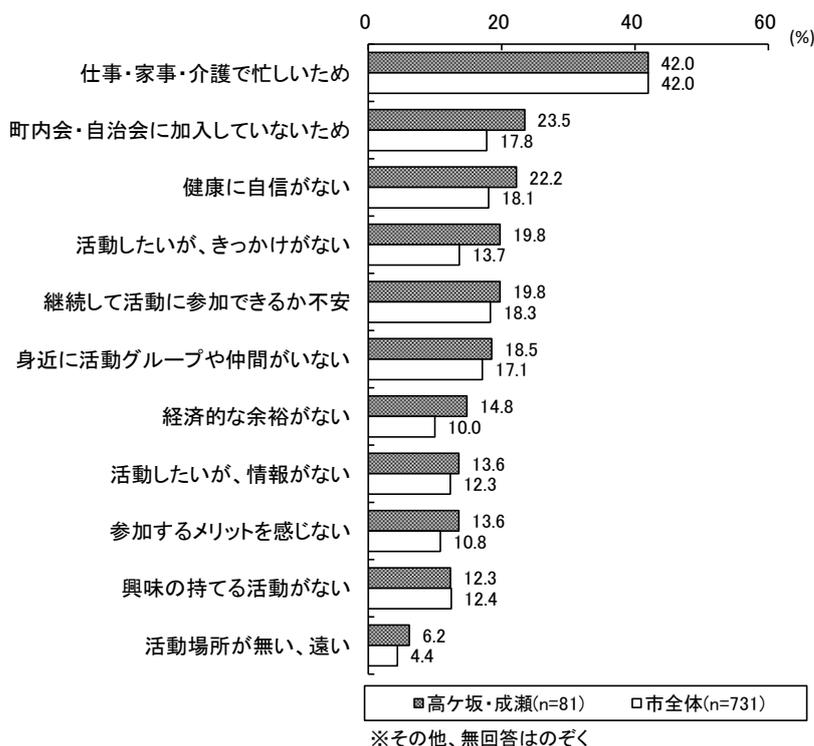
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動に「参加している」は 29.3%であり、全体と比較すると 2.6 ポイント高くなっている。



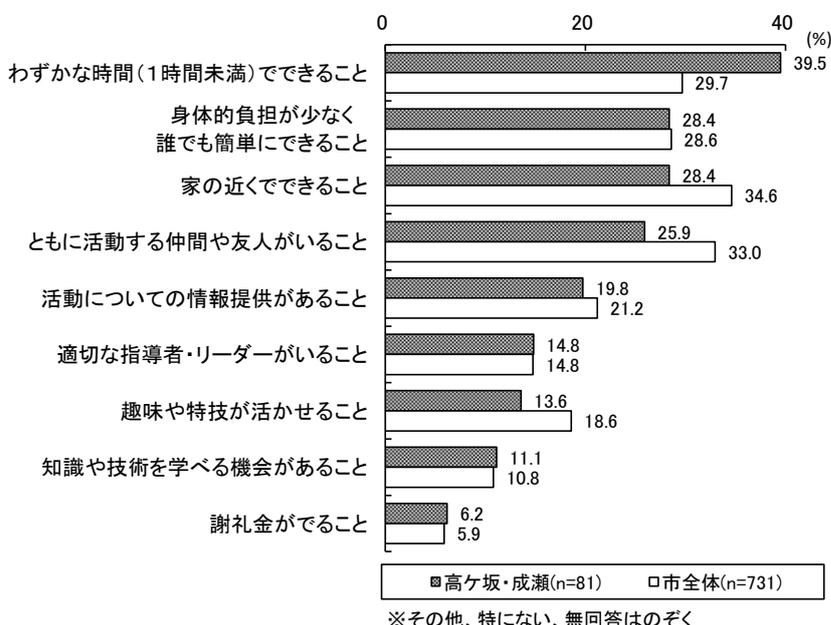
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、全体と同様に「仕事・家事・介護で忙しいため」が最も多くなっている。
- また、「町内会・自治会に加入していないため (23.5%)」、「活動したいが、きっかけがない (19.8%)」は全体を 5 ポイント上回っている。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件<参加していない人>

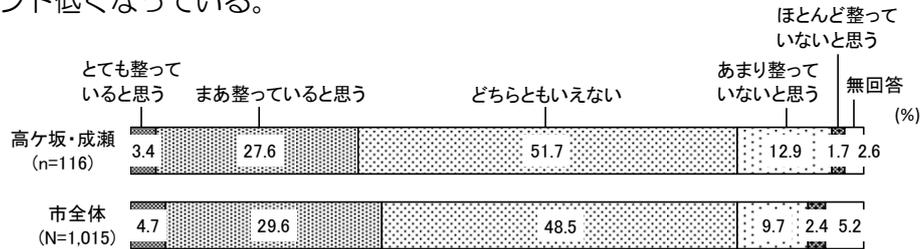
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすくなる条件をたずねたところ、「わずかな時間 (1時間未満) でできること」が最も多く、その割合は全体を 9.8 ポイント上回っている。
- 「家の近くでできること (28.4%)」、「ともに活動する仲間や友人がいること (25.9%)」、「趣味や特技を活かせること (13.6%)」は全体を 5 ポイント以上下回っている。



(4) 福祉サービス、福祉施策

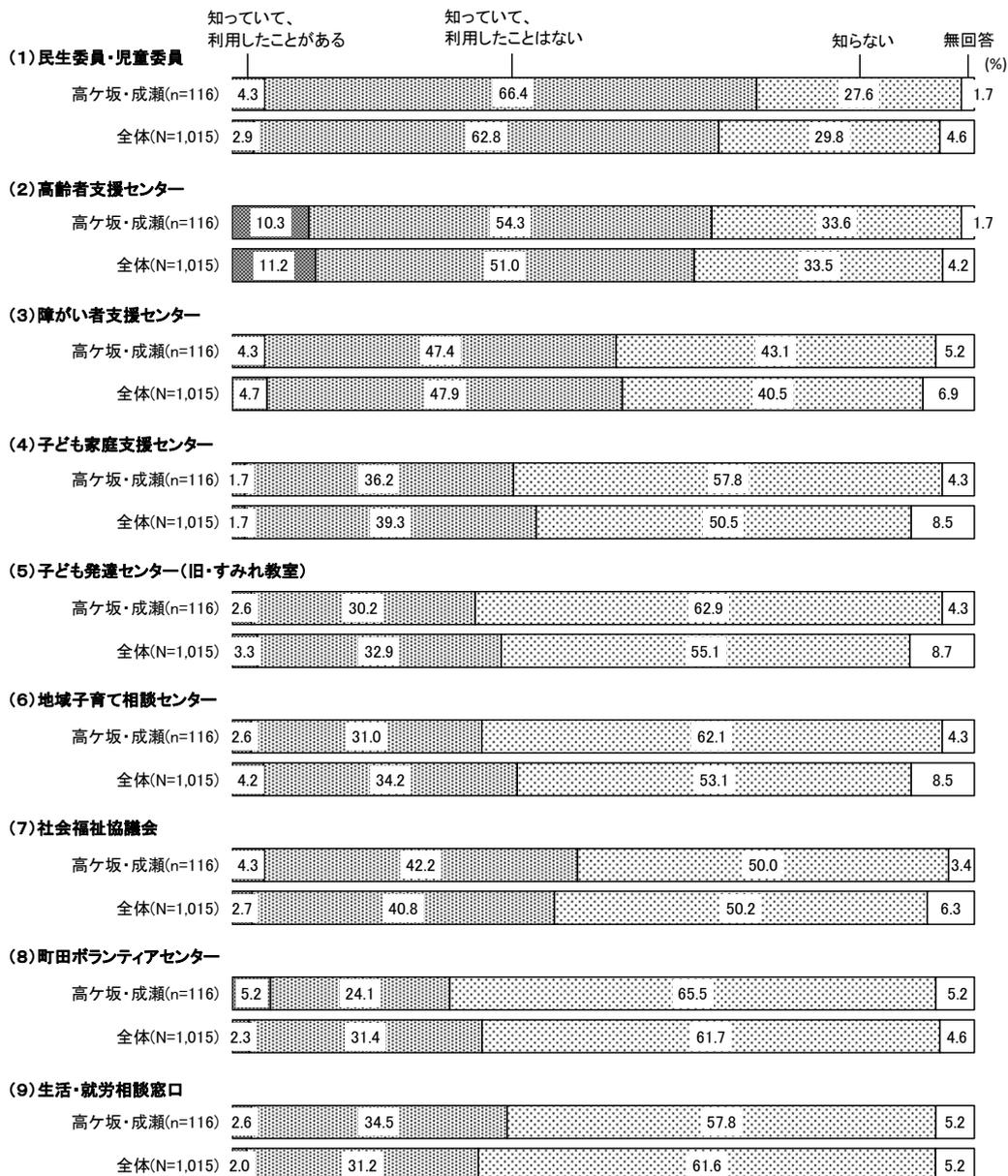
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」と「まあ整っていると思う」を合計すると31.0%であり、全体と比較すると3.3ポイント低くなっている。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度（「知っている、利用したことがある」と「知っている、利用したことはない」の合計）は、『民生委員・児童委員』で7割を超え、全体を5ポイント以上上回っている。また、『高齢者支援センター』で6割台、『障がい者支援センター』で5割を超えている。それ以外の項目では、認知度は5割以下となっている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（1）実施目的・参加人数・主な参加者

<実施目的>

●2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住いの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

<参加人数（グループ数）>

●16人（3グループ）

<主な参加者>

●町内会・自治会、社会福祉協議会職員、高齢者支援センター職員。

（2）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【Aグループ】まちと人がうまく循環して、住んでいて「ちょうどいい」まち

【Bグループ】地域の「輪」を強めて皆で子育てできるまち

【Cグループ】女性の生活を考えて、自然と都会の共存できるまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

<地域活動の充実>

- ・あいさつできる人間関係があると良い。
- ・地域のプロ（力を持て余している人材）にボランティア活動に協力してもらう。
- ・地域に見守ってくれる人がいると安心。
- ・監視ではなく見守り。
- ・仕事など余裕ないとコミュニティとつながれない。

<ハード面>

- ・電柱の地中化、道が広くなる、安全。
- ・調整池など（水がないときに）スペースを開放できれば良い。
- ・安心して通れる道が少ない。

<遊び場>

- ・ボール遊びができる公園があると良い。
- ・中高生が遊べる場所がない。

<住宅>

- ・戸建てを若い人に貸して自分はマンションに入る。
- ・外国では住み替えをライフステージに合わせてやっている。

<働く場、産業>

- ・働く場が近くにないと（交通の便が良くなっても）。
- ・産業がないと活力は生まれない。

<その他>

- ・町田のイチ押しは特にないが、そこがよい。
- ・町田ホドホドでちょうどよい。
- ・皆の「わ」をつよめる、できることからやる。
- ・メリットとして強いのはハコ物の充実よりも、皆が受け取れる制度の方だと思う。
- ・社会全体で女性の活躍を捉えなおすべき。
- ・育児に専念できる社会もよいのでは。
- ・自然に触れる機会をもっと。

（出典：各種ワークショップ等の取組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_mirairazukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- 2021年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2022年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 最近、新築の家が増加し、子どもの数が多くなっている。 若い人が増えてきた。 	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減 地域の人口減少による空洞化と治安悪化の不安 高齢化で人が少なくなっている 高齢化と孤立化 高齢化率の上昇により、高齢者だけの住まい、不在家屋が増えてきた 空家の増加 人が住んでいないと思われるボロボロの空き家が増えた気がする <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の引きこもりや健康不安の方が多い。 街に人が出なくなり、活気が無くなった。
つながり、意識	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣での知名度が上がり、理解者が増えた。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、子育て、障がい者の風潮が全体的に大きくなっているように感じる。公共施設、公共機関、道等で。 高齢者や一人住まいの方にも関心を持つようになってきた。 	
活動	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 地区協議会の開始。 生活支援の活動は浸透してきた。 成瀬お助け隊がスタートし、高齢者が困っていることのお手伝いができ、喜ばれている。 南第3支援センターの働き。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で何か活動をしたいという有志の方々が、具体的に活動を開始している。また、これからしたいと声を上げている方もいる。 80代の住民が多い地域です。年齢によりいつまでも若くない不安から地域のボランティアなど関心がある方が増えたと感じます。 	<p><2021年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会員減。 ますます自治会に高齢者の加入が減った。 自治会活動がどう役立っているのかわからなくなった。 自治体の連絡網が回りづらくなってきた。 役員のなり手がいない。 高齢化による活動の停滞。 高齢化により、雪かきなどがおろそかになってきた。 地域活動への参加意欲低下。 各種イベントの中止(コロナ禍)。 コロナ禍で、お祭り、盆踊り等の行事ができなくなり人との接触が少なくなった。 <p><2022年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、色んなイベントが中止となり、人と接する機会が減ってしまった。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
場所(施設)	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場が増えた(コロナ除く)。 ・ 成瀬鞍掛スポーツ広場が新しくなって嬉しい。 ・ 成瀬コミュニティセンターのリニューアル化が良かった。 	
まち・交通	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動スーパーができた。 ・ 芹が谷公園の裏側に綺麗な公園とグラウンドができた。 ・ 街灯が増えて明るくなった。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成瀬駅前の整備・公園の整備。 ・ サイクリング車線の整備。 	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お店が少ない、カフェなど多く欲しい。 ・ 道路や歩道の状態がよくない、バリアフリーでない。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 悪い変化として地域のハードな部分が総体的に劣化している。U 字溝が多く見られ危険で街の美化を損ねている。区域内道路の損傷が数多くあり、街の美化を損ねています。 ・ オリンピックを経て、公道や公共施設敷地でのスケートボード。 ・ 公共施設への不法投棄。
その他	<p><2021 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大変穏やかで安心して生活できる。 <p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変化について分析はできていません。 	<p><2022 年度に回答いただいたご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間にコンビニや空き地で集まっている高校生くらいの若い子たちや、高校生くらいの子たちのバイクでのエンジンの爆音・暴走が気になる。 ・ 盗難事件多発。 ・ 高齢者が増え、不審者に対する警戒感が強くなってきた。監視カメラの導入を検討中。